



- ② 厚生会館の思い出
- ③ 同窓会長・学校長挨拶
- ④ 平成25年度 大同窓会報告
- ⑥ 各支部・地区同窓会紹介
- ⑫ 学年同窓会だより
- ⑬ 座談会「高21回～25回」
- ⑮ 母校だより
- ⑮ 八高史 校旗の制定
- ⑮ 頑張ってます
- ⑮ 八代だより
- ⑮ 次回総会案内



八代市厚生会館完成間近の様子



八代中学・八代高女・八代高校

八高同窓会会報 第5号

編集・発行 熊本県立八代高等学校同窓会

平成25年10月31日発行



会館建築中の風景。八代宮のお堀との間にある道路には、かつて民家が並び、その向こうには太洋デパートが確認できます。

西日本一とも称された文化の殿堂と八高の50年



厚生会館の思い出

松島 寿市(高十五回卒)

新築本館ホールで秋の文化祭

八代市厚生会館は昭和三十七年七月に世界的建築家芦原義信氏の設計により建築されました。

私達十五回生が高校三年生の時で秋の文化祭のステージ部門は新築の本館ホールで演劇、日舞やコーラス等が発表されました。

その時、我三年七組は混声合唱で『おお牧場はみどり』を大声で唱和しました。

音響装置も照明も素晴らしく九州に誇る文化の殿堂が完成したと市民の関心も高く是非利用

したいというニーズが多数ありました。

当時、八代労音という音楽鑑賞団体が代陽小の講堂で細々と例会を行っていました。ところが、会場を厚生会館に変更したところ会員数が激増しピーク時には二千名を超える程になっていました。私も高校三年の担任だった竹内頼夫先生から広報紙のカットを依頼され、それが縁で毎月広報紙のイラストを描きはじめてました。嬉しい事に演奏中でも取材という名目でステージ裏や

楽屋等をフリーパスで通行出来て本館の隅々まで歩き回る事が出来ました。

その後、八代労演やこども劇場・民音といった団体の例会が毎月のように開催され、ホワイエでは美術展やダンスパーティー、結婚披露宴まで利用され活況を呈して行きました。

そんな中、駐車場が不足するという理由で芝生の広場のアスファルト化の要望も多かったが、そのまま残されました。そのため現在も建築当時そのままに芝生の緑とモダンな建物が調和した文化の殿堂としての風格を醸し出しています。



八代市厚生会館との係わり

多田 満(高二二回卒)

八代市厚生会館が建設されたのは昭和三十七年七月で熊本県内第一号の公立文化施設であった。当時は西日本一と称され、そのホールの檜舞台に立つことは今日でも夢や憧れである。また、昔は結婚式も行われていた。

製作した川島織物も、現在では製作が難しいと話しており、これも八代市民の貴重な財産の一つである。

東日本大震災後に行われた耐震診断でも、ホールの一部の改修のみで、別館を含めた耐震構造が半世紀以上経った現在の基準でも通用している事を考えると、芦原義信工学博士の設計が優れていた事が窺える。また、ホールの緞帳も一枚物で、

製作した川島織物も、現在では製作が難しいと話しており、これも八代市民の貴重な財産の一つである。

に近く、相当に無茶ぶりな収録であった。後日、混声合唱等の不足分をスタジオにて収録したのであるが、先輩の混声合唱の完成度は素晴らしいものであった。出来上りの作品を聴くと、八代中学校歌や生徒歌等は歴史の重みがあり当時の若き先輩諸氏の姿が目に浮かぶようだ。

八代高校の道程が見えて来るような気がする。

演奏・合唱・ナレーション・CDマスターリング・ジャケット印刷まで、全て八高生・OBOGで制作した「今甦る青春の詩」CDを未入手の方は是非八高同窓会にて入手されて青春を懐かしんで頂きたい。



八高同窓会に行こう



会長 紀岡 山元

平成二五年度の八代中学・八代高女・八代高校同窓会は八月二十四日、八代ホワイパレスで開催されました。今年の担当幹事は高校三二回生（昭和五四年卒）。懇親会のオープニングは、八代高校吹奏楽部の生徒たちによる加山雄三メドレーの演奏でした。旧制八代中学校、旧制八代高等女学校、又は、八

代高校を卒業された六〇〇名近くの同窓生が出席され、出席者の最年長、九三才の緒方基一さん（八代中学三七回 昭和一三年卒）に花束が贈られました。今年の同窓会は、明治三六年八月一八日に第一回の同窓会が開かれて一〇年目の同窓会になります。本校の卒業生は三六、八〇五名現在、およそ二四、〇〇〇名の同窓生が各地におられます。四年前に創刊しました同窓会報『道』が全国の同窓生を結ぶ絆となり、それまで関東地区同窓会、関西同窓会、福岡同窓会、そして、

熊本市同窓会と四地区だけにあった支部同窓会に、岡山、広島、山口、大分各県の同窓会が新たに加わりました。この支部結成の動きがさらに広がり、全国にあられる同窓生がその地の八高同窓会に集うことが出来るよう期待しております。同窓会では、平成一八年の学校創立一一〇周年を記念して「八高緑化事業」を行いました。昭和四〇年九月に移転した現在の校舎は、田圃に球磨川の砂礫を入れて上に土をかぶせて整地されたもので、下からすぐ水が湧き出

してくる状況でした。そのため、松江城の旧校舎から持ってきた銀杏などの大木は枯れてしまい、また、本校創立以来のシンボルである蘇鉄も危うい状況にありました。全国の同窓生にお願いしました「八高緑化計画募金」の三、三〇〇万円で、地面を掘り返して土を入れ替え、ツツジ、サクラ、ブラタナス、マツ、マキ、ケヤキ等を植えました。この緑化事業のシンボルとして植えたシダレザクラが、今年初めて満開の花を咲かせております。皆さん方のご協力できれ



いになった八高をどうぞ見に来てください。

ごあいさつ



校長 唐津 和雄

同窓生の皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のことと拝察いたします。皆様には、本校の教育活動の充実のために御支援をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。私は本校勤務二年目となりま

した。これまで、八代での大同窓会をはじめ全国各地の同窓会に出席させていただきまして、どの会場においても歓待していただきました。往時のことを語られたり、現在の様子を問われたりする言葉の端々に、母校に対する深い愛情と後輩に対する大きな期待が感じられました。このことは生徒たちにしつかりと伝えていきたいと思えます。現在の校舎は、昭和四十

年九月に永碇町に全面移転して四十八年が過ぎました。体育館の場所が変わったり、併設中学校の体育館や技術棟などの新しい建物が増設されたりしています。が、それ以外は概ね当時のままです。昭和四十年代には、各学年十一クラスで全校生徒千七百名余りが学んでいたのですが、今は高校各学年六クラス、中学各学年二クラス、中高合わせて九百七十三名になりました。余剰教室では、少人数分割

授業等を行い有効に活用しています。昨年、耐震工事とエレベーターを完備した渡り廊下が完成し、ここ数年続いた工事も区切りがつきました。今年度は、実に静かな落ち着いた環境の中で、生徒たちは学習や部活動などに励んでいます。施設・設備は十分に整いました。これからは、中身の充実のために、師弟同行を旨とした教育を一層進めていきたいと思っております。先輩方の御尽力により確立さ

れた、高い次元の文武両道を基盤とする清新潑刺たる校風を継承しつつ、さらに八高らしさを際立たせ、社会に貢献できる人材の育成に鋭意努めて参ります。皆様の各界での御活躍が在校生の心の大きな支えとなっています。今後とも八高と八中への応援をよろしく願います。最後にになりましたが、同窓生の皆様の益々の御隆昌を祈念申し上げます。

平成二五年度 八代中学・八代高女・八代高校大同窓会

恒例の大同窓会が八月二四日、八代ホワイトパレスで開催されました。

今年の幹事学年（高校三・四回卒）のテーマは「あのととき、今、そして未来へ」。

時空を超え、同窓のきずなで結ばれた五五〇名にも及ぶ皆さまにお集まりいただき、総会、講演会、懇親会と活況を呈した一日でした。



のおもてなしの気持ちで臨ませていただきました。

同窓会総会は、この一年に亡くなられた同窓生の方々への黙祷の後、岡山元紀同窓会会長による開会の挨拶で、この一年の総括を、現八代中学・高校長である唐津和雄名誉会長からは現在の母校の活躍の様子を、お話しいただきました。その後、来賓の方々から、各支部の活動報告を兼ねた挨拶があり、全国各地の諸先輩、同窓生の活躍、ふりに誇らしいばかりでなく、我が身の引き締まる思いがいたしました。

引き続き、今年度の同窓会役員体制、前年度の同窓会行事、決算、監査報告、そして今年度の行事予定、予算案と、肅々と進行する

議事に会員皆様の承認をいただき、最後に、同窓会報、年会費納入、花馬奉納会の報告が行われ閉会しました。

講演会

「共にありたいと願い」

氷川町にある知的障害者施設氷川学園でその施設長を務める西坂千賀子さん（高三一回卒）と同施設職員の竹田将さん（高五〇回卒）の『共にありたいと願い』と題した講演会は、障害者を取り巻く現状や氷川学園の活動、障がい福祉へ進んだきっかけ、そして今、新たに取り組もうとしていること等、仲間の皆さんと共に働き、学びながら感じたことなどを話していただき、皆さん深く聴きいっておられました。

障がいを持つ「個性」であると理解し、受け

懇親会

八高吹奏楽部による荘厳なパッサカの讃美歌の演奏に伴われ懇親会が始まりました。その後演奏は軽快な「加山雄三メドレー」、「ど演歌」エキスプレス」と続き、耳になじみのある懐かしい曲の数々に思わず口元もほこ



入れること、まさに副題の『みんな違って、みんないい！そしてみんな同じ』を心に刻む講演会でした。



ろびます。そして、ステージにスポットライトが当たり、幹事学年有志による「南中ソーラン節」が、これも八高吹奏楽部の演奏で披露





されるともう絶好調。我がダンスチームのキレのいい動き、発せられる威勢のいい掛け声に会場は一気にお祭りムードに変わり、今年度実行委員長中田利一郎による開会宣言が行われました。

テーブルにたび重なる食事の上厳選されたメニューが準備される間、ステージでは会長、名誉会長挨拶、そして今年の最高齢のご出席者、緒方基一様への花束贈呈と賑々しく行われ、いよいよ福島和敏市長（高



▲中学校歌斉唱



▲高女学校歌斉唱

一三回卒）の乾杯の掛け声で勢いよく宴の開幕。思ったのもつかの間、壇上へ早くも八代高女の皆様が登壇され、校歌の斉唱が始まりました。負けてはならじと八代中学（旧）の皆様が続いて登壇され、声高らかに「神さび立てる龍峯の」と歌いあげられ、一気に会場のボルテージは上がっていました。

今年は講演に登場した氷川学園で作られている「さをり織り」の作品や地元の特産品トマトを使った焼酎

セットなどの販売もあり、「重が土産な」と笑顔で買い上げたいただきました。そうこうしているうちに宴も終盤。慣例の法被引き継ぎ式、校歌「道」斉唱、万歳三唱と大団円のうちにお開きとなりましたが、談笑の声はいつまでも途切れることなく続いたのです。



そして、学年同窓会へ：

こうして怒涛の一日が終わる前にしなければならぬことが：

それは私たち幹事学年の同窓会。地元で一年前からミーティングを重ね、遠方からの同級生とも心を合わせて良いおもてなしができるよう段取った成果を噛みしめつつ挙げた祝杯。ハイテンションで交わす会話。

卒業以来という顔合わせがあってもそれこそ時空を超えて笑いあえる幸せ。行き届かない点もあったかと思いますが、心から思いました、八高万歳！



各支部・地区同窓会からの「お便り」を紹介します。

関東地区同窓会

八代から遠く離れた関東地区同窓会は、関東一都六県とその近県に在住する卒業生、旧職員等を会員として活動しています。会員はおよそ二六〇〇名で、一〇回卒の守屋会長、十九回卒の中村事務局長を中心とし、学年幹事会を開催して、総会を運営しています。活動は『総会・祝宴』『クラブ活動』等を行っており、ホームページとfacebookを連絡や情報開示に活用しています。以下に活動の内容をご紹介します。

総会・祝宴



今年の当番幹事は石村さん、酒井さんを中心とした高三九回卒の皆さんで九月七日(出)に二二五名の皆様にご参加をいただき盛大に開催いたしました。会場は浅草ビューホテルで、浅草寺や東京スカイツリーが近い観光地なので、総会の前後にお散歩をされた方も多い



ようでした。司会は高四六回卒NHKアナウンサーの有田雅明さんで、格調高く時折ユーモアも交え、楽しく進行していただきました。やはりさすがプロです。

第一部『総会』総会は、ご挨拶、ご祝辞、決算の報告と承認などが行われました。

第二部『祝宴』総会終了後は乾杯をして、ビールやワインにおいしい料理をいただきました。

ながら、年に一度の再会を喜びながらの歓談です。歌舞伎役者の市川笑三さん、お天気キャスターの平井信行さんなどの有名人もご参加いただき大人気！さらに、八高の制服姿の若者の県産品販売や写真サービスなどもあり、当番幹事の細やかな気遣いを感じられました。



アトラクションは東京藝大出身で音楽家の本岩孝之(高二四回卒)さんのリサイタルでした。最後の曲は勝利を祈る『アウエマリア・マキシム』でした。これが何とヴァンフォーレ甲府の試合のオープニングセレモニーで歌われた曲とのこと。ロアッソ熊本だったかな。(笑)

最後に全員で校歌を歌い大盛り上がりで終了し、それぞれ浅草見物や二次会、三次会へと向かわれました。

クラブ活動

『東京スカイツリー観覧会』

今年の活動で一番多い参加者で盛り上がりました。企画と案内はスカイツリーの設計者の一人である二十八回卒の有田幸生さん。八月の土曜日に一回四十〜五十名で、二回開催されました。天候にも恵まれ四五〇mの展望台から東京タワーや都庁を見下ろして爽快でしたが、透明床から下を見るとさすがに怖い!!

『居酒屋探検隊』やりたい

と思った人がfacebookのグループページで同窓生の『友達』に呼びかけ、不定期(突然)かつ神出鬼没で行っています。なにせ居酒屋さんはいくらでもあるので、どうとでもなります。この時とはかりにやつちろ弁でワイワイガヤガヤ、結構お安く楽しんでいきます。



『同窓会ゴルフコンペ』

十一月に予定されており、二〇名ほどの同窓生が参加される模様です。写真等ご報告は来年の会報でお知らせします。

ホームページ、facebook

関東地区同窓会のホームページ『八高関東どうと混む』は、総会の案内、写真のダウンロード、クラブ活動、各種報告事項などを掲載しておりますので<http://www.85kantou.com>にアクセスしてぜひご覧ください。また、住所変更届けもホームページで出来ますので、関東地区での移動・転入・転出などの場合には、ご利用ください。

facebookでも『八代高校関東地区同窓会』の名称でfacebookを作成しており、同窓会関係の連絡や報告などを行っています。また、グループページでは同窓生それぞれ近況などを書きこんで楽しんでいます。

ぜひのぞいてみてください。

まとめ

私ども関東地区同窓会は、総会やクラブ活動など同窓生は来る人拒まずで運営しております。関東地区の同窓生の皆様はぜひ積極的にご参加ください。また他の地域にお住まいの方は関東地区にお寄りの際には、同級生などに連絡を取ってみてください。

飲食店などは山ほどありますので、大歓迎で迎えてくれると思います。

関東地区での住所変更は、ホームページ <http://www.85kantou.com> をご利用ください。

私たちの関西同窓会

第22回総会・懇親会 (平成25年6月1日)

米寿・中 42 回生・傘寿・高 5 回生、喜寿・高 8 回生、古希・高 15 回生を祝う！！



二十名を超える「来賓」
会長 宮崎 正郎(高十四回卒)

関西では同窓会の懇親会に、友好高校同窓会から来賓をお招きしております。

「総会で『防衛大臣補佐官・折木良一氏の講演』を予定」と来賓案内を送りましたところ聴講を希望される来賓がなんと二十名を超えました。講演は勿論のこと、来賓への手土産(東陽町の生姜の味噌漬け・日奈久の竹輪)、「八高はやるのがちがうなあ」と大好評でした。

楽しめました初司会
谷本加奈(高五四回卒)

今回で二回目の参加となる八高関西同窓会、一度目は緊張しつつの参加でしたが、沢山の素敵な先輩方との楽しい時を過ごすことが出来、あっという間の時間でした。しかし、今年は違いました。「いっちょよ司会ばやってもらはんね！」の言葉に引き受けはしたものの、当日まで「私で司会という大役は務まるのかな」という不安の毎日。

そしてとうとう迎えた二〇一三年六月一日。太閤園にて朝から役員の方々がせわしなく準備をされている傍ら、私は原稿にとらめっこ。それと同時に高まる緊張。そんな私に先輩方は、「あなたのキャラがいいよ」「大丈夫、頑張つて」とお声を掛けていただきました。

初めての司会は緊張の連続でしたが、めったにできない貴重な経験で昨年とは違った楽しみを味わうことができました。関西で飛び交う故郷の話。皆様もぜひ八高関西同窓会でお会いしましょう！



同窓会参加から思ふこと
橋本真一(高五四回卒)

去る八月一日、八高関西同窓会に初めて参加致しました。

五十四回生から二名、最年少での参加となりましたが、多くの先輩方に囲まれ、楽しいひと時を過ごさせて頂き、更に八高の歴史と伝統を改めて感じる機会となりました。今回の同窓会参加を機に、卒業以来、連絡の途絶えていた仲間たちに連絡を取ってみようと思ひ立ちました。

どこに居ても、インターネットで繋がる便利な時代ですが、やはり、せめて数年に一度は直接会って懐かしい話を花を咲かせてみるのも悪くないと感じます。

学年幹事となった今、三十年続く関西同窓会の輪をもっと広げていける様、微力ながらお手伝い出来ればと考えております。

季節の移ろいを 大和路ハイクに求めて！



二〇〇七年の秋、奈良明日香村に咲く彼岸花の観賞に出かけて早や六年が経過する。

大和路に古代ロマンをもとめるハイクに、参加者が八高だけにどまらず八代東・秀岳館・水俣高卒の仲間が集つ。

季節の移ろいが如実にあらわれる春秋の年一回の開催。担当ガイドはコース選定の後に、資料集めと下見で現地を試歩。無理のない安全の行程に修正して当日のガイドに生かす。

好シーズンの一日を大和路に身を置き、同窓の友と古代の風を感じましょう。

「八代いさつか会

世話人・橋口敏昭(高十回卒)

八代高校同窓会

福岡支部だより

平成二五年度の福岡支部同窓会が七月六日(土)、福岡市の八仙閣本店で開催、来賓を含め約一〇〇名の同窓生が参加しました。

例年二月開催でしたが「博多といえは山笠」と言われる博多祇園祭のシーズンに合わせ、今年から七月の開催となりました。梅雨明け前の豪雨と重なり心配されましたが、開始時間には雨も上がり、多くの同窓生が集いました。



当日は朝から大雨警報が出るほどの悪天候でしたが、十三名の同窓生が参加、なかには群馬県や山口県からもわざわざ参加された方もいらっしゃいました。天候は幸い午後には回復し、予定の山笠コースを巡る事が出来ました。

参加者は二グループに分かれ、それぞれにボランティアガイドさんをつけて案内してもらいました。スタート地点は櫛田神社近くの「博多町家保存地区」すぐ目の前で西流れの「昇き山」(博多では山笠は山と省略される)の組み立てや試し昇きなど見ることが出来、いやがうえにも祭り気分になりました。

まず櫛田神社に参拝、境内の昇き山の折返し点やそれを囲む観覧席など見物、「意外と狭いな」の声も聞かれました。続いて常設展示の飾り山を見物、〃飾り山は表と裏(見送り)〃があり表は武者物、裏は童話やアニメの題材が多い〃などガイド毛利さんの説明に皆さん熱心に聴き入っていました。次いで上川端通りに入り昇き山や飾り山など見て歩きました。この時、はぐれ防止の目印になるようにと同



行幹事に同窓会の法被を着てもらいましたが、これで思わぬハッピーニングに遭遇しました。通りで一人の女性が声をかけてくれました。私の弟は八高十回卒で同窓会にも良く出かけていました。法被を見て懐かしさのあまり思わず声をかけたこの事、聞けば弟さんは同窓会で良くお目にかかり当地では著名な人、女性も〃私も八高卒です〃と告げ、皆喜んで記念写真を撮ったりしてしばし歓談しました。その後博多座近くの「飾り山」を見て「昇き山」の走る「町家」の通りを散策して櫛田神社まで戻りました。この間も通りすがりに私も八高生でしたと数人から声をかけられました。結構八

高卒業生がいたんですね！さて、別のグループと合流し、参加者全員で記念写真を撮り、初めての「博多まち歩き」行事は一時余りで無事終了しました。

辰巳 守一(高九回卒)

来年の同窓会も七月です。

今年は、昨年の大同窓会で、大変ご好評をいただいた絵はがきを販売しました。会場には絵はがきの作者である岩崎日出己画伯も居られて楽しいお話を伺いました。

皆様のおかげで用意しておりました五十セットは完売し、同窓会に寄付することができ、ありがとうございました。また販売のために同級生が六人集まり、楽しい時間をすごしました。

一年に一度、母校に思いを馳せてつながりを深める同窓会。来年もまた七月第一土曜日に開催の予定です。またここ八仙閣でお会いしましょう。

平成二十五年八代高校(八中・八女)同窓会 福岡支部総会関連行事 「博多まち歩き」山笠コース参加報告



今年より福岡支部総会は夏場開催に変更、平成二五年は七月六日に開催されました。折しもこの時期は当地の夏祭り「博多山笠」が催行されました。



熊本市支部だより

熊本市支部第十六回総会
が、平成二十四年一〇月二七日
(土)全日空ホテルニユースカイ
にて、同窓生三六九名の参加
のもと、盛大に開催され、会
長に益田敬二郎氏が選出され
ました。



私は、昨年(平成二十四年)
十月二十七日開催の熊本市支部
同窓会において、会長に選任さ
れました八代高校昭和三十八年
(十五回)卒の益田敬二郎です。
副会長は村山光範さん(昭和
三十九年十六回卒)、大道龍生
さん(昭和三十九年十六回卒)、
秋築多恵子さん(昭和四十六年
二三回卒)の三名です。会長就
任の経緯ですが、前会長の富田
徹也さん(昭和三十三年十回卒)
が二年の任期を残して勇退され
ましたので、私が残り二年を引
継ぐということで会長に就任し

た次第です。二年間四人で頑張
りますのでよろしくお願い致し
ます。
皆様ご承知のとおり、熊本市
支部同窓会は、現在顧問をお願い
しております有馬大三さん
(昭和二十七年四回卒)、井村昭
夫さん(昭和二十九年八回卒)、
窪寺雄敏さん(昭和三十三年九
回卒)を中心とする先輩方の大

変なご尽力によって設立され、
昭和五十七年十月に鶴屋ホールに
おいて開催された第一回同窓会
の懇親会には七五〇名の参加者
があったと聞いております。さ
ぞかし大盛況であったと思いま
す。当初は毎年開催されており
ましたが、現在では二年に一
回、十月の季節の良い頃に開催
され、昨年十月二十七日開催の
第十六回同窓会には約三七〇名
の参加があり、大いに盛り上が
りました。

私は平成十八年十月二十八日
開催の第十三回同窓会におい
て、代表幹事として関わりまし
た。その二年前の平成十六年十
月十六日に開催された第十二回
同窓会の閉会間際に、次回開催
幹事年の代表として挨拶をさせ
られ、酒の勢いもあって、「こ
れまでと違った同窓会をしたい
と思います」と大見得を切って
しまったため、後に退けなくな
り、非常に困りました。しかし
ながら、幹事年の同級生(昭



和三十三年十五回卒)、下級生
(昭和三十九年十六回卒)を始
め多くの方々にご協力を戴いた
おかげで、第十三回同窓会には
四〇〇名近い参加がありました
し、少しは新しい方向性を見つ
けることもできたのではないか
と思っております。

ただ、熊本市支部同窓会も参
加者の高齢化が始まっておりま
すので、今後は若手の参加を拡
大していくことが必要ではない
かと思っております。そのため
のアイデアをお持ちの方は是非
私宛にご連絡戴ければ幸いです。
よろしくお願いいたします。



愛知地区同窓会

四四八高会

今年の幹事は二人の信子さんです。豊田市駅近くで集まって、まずパン作りを楽しみました。男の人にもパン作りを体験させてあげようという幹事の思い入力で実現しました。焼き上がったパンを前に一枚。この笑顔を見て下さい。どの顔も満足そうですよ。

手は動かしながら、一年振の顔に話ははずみます。「十二年振りにやっと参加出来ました。」の人も居て、とても賑やかに時間は過ぎ、外の三十六度という暑さを忘れる程楽しめたようです。



食事の会場は少し歩いて、ビル

が、元々、本店が福岡にあるというところで、テーブルの上には『夏はあつかねー。ひえた豆ふば食べたかねー。』と書いた懐紙が私たちを待っていました。

た。懐かしいこの方言に、まず方言で話が盛り上がり、年令の話、選挙の話、つわりのひどい娘の話も出て、孫の話とバラ

エティ豊かです。今年は富士山の話ももちろん出て、頂上まで登ったことのある人、これから登ってみたい人もありました。『道』を読んで、「仲間に入りたい」という人が数人あり、でも、日程や体調が都合悪くて、参加されませんでした。来年には新顔に会えるかもと、楽しみにしています。ゴルフの方は月一回のペースで出かけて更に親睦を深めています。

岡田多美子（高校二回卒）

岡山地区同窓会

総会・中四国同窓会

平成二十五年の岡山同窓会は総会の後、昨年に続き、中四国懇親会を開催しました。

中国や四国地方のみならず、ネットで全国の卒業生へ呼びかけ、たところ、関東や関西、また近



懇親会前の記念写真

県からもたくさんの方の八高卒業生にお集りいただき、大変賑やかな懇親会となりました。

また、山口県や広島県の同窓会会長にもご参加いただき、大変意義深い同窓会となり、今後の中四国における八高同窓会の拡がりを予見させるものとなりました。

なお、岡山同窓会の会長は、前期に引き続き、森田敦史（高十四回卒）が再任され、事務局も同様に、吉田高範（高十八回卒）が続けて担当します。

新年会

毎年恒例の新年会は、互礼会と共に、一年の行事予定を話し合つ、年初の集いです。

今年も同窓会総会や暑氣払いの他、ゴルフコンペや江島幹雄氏（高二〇回卒）が主宰する倉敷アカデミーアンサンブルの演奏会を鑑賞したり、東京町田市在住の田原弘徳氏（高十回卒）が館長を務める岡山の武蔵武道館で開催される高校生剣道大会



や社会人女子の「お通杯」剣道大会を応援に行くことなどを話合いました。

暑氣払い

今年も屋上ビアガーデンで乾杯し、夏の夜の楽しいひと時を過ごしました。



大分地区同窓会

八代高校大分同窓会

今回大分支部は九月七日、昼食をとりながらの同窓会を開きました。会場は花菱ホテル最上階。眼下に別府湾が広がり、近くは国東半島、佐賀関、遠くには四国をのぞみ、ゆったりとした時間を共有しながら、懐かしい同窓との友情を分かち合いました。

ビロードの別府湾の静かな波を見つ、何故か「♪遠く聞こゆるは八代海の潮音か心の耳すませば強く生きん...♪」と聞こえたように思えた。

松本事務局長の挨拶、私が「平成二五年度八代高校同窓会総会の経過報告、模様等」を話しました。楽しい語らいの中「やはり同窓っていいな。やっちゃん

は永遠に不滅なり？」と想ったのは私だけでしたか。（笑）

今回主催のテーマの一つは「いかに多くの会員に同窓会に参加してもらおうか。」でした。食事をしながらの懇談の中で、時期的な事や観光地での開催もいいのではないかと、意見もありました。

終わりに前村顧問の挨拶があり、次回は盛大に開催しよう、と、気持ちの入ったお話で締めとなりました。

尚、その後、前村顧問のご好意で、別荘の温泉に入ってはとのご提案に甘えて、皆で二次会の同窓会となりました。ここでは前村顧問のご主人様、片桐さんの奥様も参加され盛り上がりしました。

心から故郷を語り、八代弁に笑いコケながら、豊かな心に満足した一日となりました。皆さんありがとうございました。

「故郷は遠きにありて想つもの」まさにやっちゃん高校、我が故郷！バンザイ！

大分同窓会長



田河清一（高十三回卒）

山口地区同窓会

第二回総会・懇親会

重田千恵子（高十八回卒）

平成二十四年九月八日（土）に第二回山口県同窓会総会・懇親会を山口グランドホテルで開催しました。関東地区同窓会と開催日が重なった為、本部から会長や校長先生にご出席していただくことは出来ませんでした。福岡支部の佐藤好助会長にお出でいただき、有り難く思いました。山口県からは昨年より六名多い十二名の同窓生の皆様が出席して下さいました。



総会では、山口県同窓会会長に山下鐵洋氏の再任が承認され、また、開催時期について事前アンケートの結果などの報告がなされました。

続く懇親会では、お一人ずつ思ひ出話を交えながら自己紹介をしていただきました。その

後、余興として去年と同じく今回も、母校の今の様子が少しわかる『クイズde八高』を用意しました。

最後に校歌を歌いましたが、この時流したCD「今、甦る青春の詩を皆さんに紹介したら、『欲しい!』という方が五人いらして、後日八代の友人からCD五枚を送ってもらいました。そのCDを聞いたお一人から、『とてもいいCDですね。聞いていて八高時代を思い出し、感激で涙が出ました』とお電話をいただきました。

山口県内また近隣地区の同窓生の皆さん、次回の山口県同窓会に参加して、八代中学・高等学校・八代高校の校歌と一緒に歌いませんか。

平成二十五年三月十七日の思い出

森中登美子（高十七回卒）

肌寒さは残っていたが晴天に恵まれたひと時だった。

下関市にある海峡ゆめタワー二十九階フランチ料理店「ブラッスリイリュウ」で下関地区在住の八代高校同窓生の女子会が開かれた。会場の選定から駐車場の配慮まで、十八回卒重田さん（宇部市在住）のお世話によるものだった。お陰で、当日都合のついた合計八名の出席者



が集まった。私自身は、下関に住みながらこの店を利用したことは無かったが、まさに天空のレストランとのうたい文句通り、二十九階の高さは目を充分楽しませ、おいしい料理に故郷の話は一層盛り上がった。八高のその後の存続の有り様から友人の消息、方言の特異性、八代の特産品や土産物など、また、出席者の生活状況に合わせた形での様々な将来性についてのおしゃべりへと話は続いていた。

予定時間は直ぐ尽きて、五十歳代から七十歳代までの六人の出席者が、再会を契って春の夕暮れに散っていった。互いの背中に『お元気でまた会う日まで』のエールを掛け合いながら…。

お互いにこの世に命のある限り、何とか後一躍りできると幸せですね。

広島地区同窓会

広島県同窓会

昨年九月一日に発足した八代高校広島県同窓会の一周年記念総会を、去る八月三十一日に開催しました。

広島県も今年は、猛暑続きで、出席者も十一名にとどまりましたが、同窓会本部から岡山会長及び本村事務局長をお招きし、また、お隣の山口県からは山下同窓会長、岡山県からは吉田事務局長にもご出席をいただくことができ、総勢十五名での同窓会となりました。

懇親会は、谷崎会長の挨拶でスタートし、来賓の皆様からご挨拶をいただいた後、鶴副会長の乾杯により懇談に入りました。懇談中、八代市役所八代ブランド総室の窪田様からご提供いただいた八代市の観光・イベントDVDを上映させていただきました。故郷を離れて半世紀ぶりに八代市をご覧になった方もいらつしました。出席の皆さんがそれぞれの思いで映像をご覧になっておられました。

歓談は途切れなく、年代も超えて続いていましたが、出席者の皆様の近況も披露していただくなどする中で、更に盛り上がり

りました。最後に、母校の校歌を合唱し、次回同窓会での再会を約し、お開きとなりました。

年に二回程度の開催ではあります。参加される皆様が如何にこの会を楽しみにされているのかということが良く分かった今回の同窓会でした。

今後は、できれば、広島県内の大学に進学中の後輩の皆さんの参加や、同窓会組織のない近隣の同窓生との連携などにもチャレンジしていきたいと考えています。

近県にお住まいの方で、広島県同窓会に参加を希望される方がいらつしましたら、是非ご連絡ください。お待ちしております。

村田栄治（高二十八回卒）



学年同窓会だより

高女
33 回 卒
昭和12年卒

久しぶりに岡山会長より原稿依頼のお願いの文書を頂きました。有難く拝読致しました。

今回の原稿提出はこれが最後の高校への務めかと思ひ、受ける事にしました。先日提出書類に九十一歳と書きまして。九十二歳と横から注意されて書きなおしました。ボケの始まりは物事の忘れ、言い忘れ、置き忘れ、後始末の忘れ、近頃は行事板より、新聞、テレビが一番眼に入り頭に入り念入りに読みます。私の現在の暮らしは九階建ての六階東南の角で気に入っています。東から昇る朝日に一礼し、亡き両親、戦死した夫病死の長女に観音経を唱え、それから私の一日がスタートします。七時二〇分に一階食堂へ行きます。皆さんを重ねた人ばかりで温和で挨拶して食事につきます。時々椅子が空いているところへ行つて気分転換で朝食をする人も居られます。今は相撲が放映されると一斉にそちらへ椅子を向き直して見ます。学校給食と同じく皆お利口さんで

喰べる間一声も聞てえません。食事が終わって一日が始まります。

理事 佐渡ノブ子

ハ中
46 回 卒
昭和21年卒

恩師 松永先生

三三回忌にお参り

昨年九月二八日に松永義春先生の三三回忌に広島から駆けつけてくれた高村(宮田)好秋君(中四七回)、八代在住西条正規君(中四八回)と荒木辰巳(中四八回)の三人で佛前にお参りをさせて頂きました。

先生は、私たち三人が八千把小学校五年生の時から担任の先生で、更に八代中学に三人揃って入学した時も同時に数学の教諭として着任され、引き続き指導頂いた恩師であります。

当時の中学の入学試験は口頭試問と体育の試験のみでした。先生は、若し入学後の成績が不良では、何にもならぬとて課外授業で数学・国語には特に力を入れ教へ込まれました。体育授業では鉄棒の蹴上り逆上がり等全員が完全に出来る迄徹底的に

指導されました。

又相撲の指導も熱心で、当時恒例の太田郷竹原神社での相撲大会では、時々勝負に物言いをつけられる事もあり、なかく熱のこもった大会であったことが記憶に残っています。先生が中学着任の折、誰言うことなく「もぐり先生」と愛称をつけられ長く親しまれる事になりました。今でも「もぐりの会」なるグループも結成され敬愛されて居る由。先生の人がしのばれるお参りが出来て幸せでした。私達は敬愛する恩師に恵まれたことを今でも誇りに思っています。

荒木辰巳(中四八回卒)

ハ高
3 回 卒
昭和26年卒

文集・もぐり一派

ちやうど大戦後の混乱期だった。昭和二十四年度二年六組(担任松永義春先生)の私たちは、若人の心境・思いを文章にした。当時の先生方からも寄稿をいただいた。その綴りを、松永先生のニックネームをお借りして「もぐり一派」と名をつけ、ガリ版にて下記写真Ⅰのように文集にして発行した。

社会人となった現役の頃は、

出版した文集のことなどすっかり忘れていた。ところが五十年後の六年前に、大森定光君がその文集をコピーして配ってくれた。昔の文章を読んでみると、青天の霹靂、大いなる驚きだった。

文集は人生を豊にする

何の記録もなければ、華やかな輝かしい青春時代の思い出も、年をとるにつれ消えてしまつても私たちは貴重な文集を残した。早速、皆が集まり文集を手にして、青春時代を鮮明に思い出し楽しく語り合つた。

私たちはすでに四回の会合を開催し、今年十月には第五回目を計画している。一般的には、卒業時の三年生クラスの交流が盛んであるが、私たちの場合は二年生クラスの交流が熱い。文集のお陰だ。

皆の結束力も増してお互いの絆が強い。ガリ版の原書では読みにくいので、下記写真Ⅱのようにパソコンによる復刻版(B5サイズ)を出版した。又、八十歳を越した老人ながら、脳を活性化させ原稿作成に努力して第五集の発行に成功し、来年は第八集の発行を計画している。以上のように、文集は老後まで人生を豊にしてくれる。

文集発行のすすめ

昨年、八高図書館に第四集までの四冊を寄贈した。OBの方で希望者がいたら、閲覧許可をとり、ぜひ読んでみて下さい。



写真Ⅰ
第一集 原書
昭和25年3月発行, 151頁

写真Ⅱ
第一集 復刻版
訂正 23年2月発行, 143頁

写真Ⅲ
第二集 喜寿
平成21年3月発行, 85頁

写真Ⅳ
第三集 復刻・大震災編
平成23年4月発行, 21頁

写真Ⅴ
第四集 傘寿草紙の
平成24年3月発行, 43頁

写真Ⅵ
第五集 八十一歳の書
平成25年6月発行, 42頁

文章上達は大学受験でも有利だ。在学生諸君は、スマホ等への熱中もほどほどにして、以上の文集を参考にして文章上達に留意されるよう希望します。

OBの皆さんにも定年後は特に、友人間の絆を強め人生を有意義に過ごす為にも、文集の作成・発行を推薦いたします。

野々口哲朗（高二回卒）

八高5回卒

昭和28年卒

八代高校卒関東地区二八会最後(?)の開催

二〇二三年四月一日、卒業して六〇年という節目の年、会場は如水会館、深緑の眩しいお昼どき。関西からの参加もあり、二五名の懐かしい面々が顔を合

わせました。

「四〇にして惑わず」という言葉を使った最初の同窓会のお知らせから三八年が経過し「心の欲する所にしたがいて矩をこえず」からも脱し、健康であればこそ、集える幸せ、よろこびを分かち合った会となりました。

八〇歳になんくとする人生の重み、短い近況報告からもうかがい知る日でもありました。

最近では身体の不調を訴える友、鬼籍に入られた友など、参加者が減り、最後の会にしようとの声もあったのですが、誰からともなく「傘寿で会いましょう」の声が上がりました。

ふるさとを、学窓を、同じくする者たちの語り尽せぬ思いがあったからでしょうか。

果たして二年後は？を胸に散会となりました。

(高五回卒) 文 小林映子
写真 小島弘光

八高7回卒

昭和30年卒

次回はどうなる

「みなさん、お立ち下さい。先に逝った友達へ黙祷を捧げます」

進行係の言葉に、みんな椅子を立ち、神妙な顔をして、頭を下げた。八代高校第七回卒同窓

会のスタートである。お互い同年の者ばかり、四八人の参加者であった。いずれも人生の一仕事を終えての参加である。

考えてみると、高校を卒業して六〇年、七七歳の「喜寿」でもある。よくぞ元気で、この集いに参加出来たものだ。女性が一人杖をついている。車椅子の男性が一人、奥さん同伴で参加している。五体満足とは言えないが、それでも級友との対話は嬉しそう。また相手も、若いときと同じく、愛称で呼び掛けている。

長年、商工会議所の会頭を務め、今は後進へ、釣り三昧という〇君。この会のまとめ役でもある。しかし、「腰が痛い」といって、椅子に座ったままでの挨拶となった。

日本画家で、能の舞い姿を描いているIさん、毎年年賀状にその作品を印刷し、楽しませてくれる。私は日記に貼り、よく眺めている。

タイプ・パソコンが専門で高校教師を終え、今は民謡・三味線のお師匠さん、町内会長も十年になるといつK君とは私のこと。

今回は参加しなかったが、同じクラスから現役で東京大学へ二人も入り、一人は大学に残り

教授となり、工学博士でもあるH君。私は「東大は少数の選ばれた者だけ」と思っていたら、なんと今年の全入学生は三千人という。学生一人につき、招待者は二人まで許されるというので、一万人参加しての入学式だったという。また他のクラスから京大へいき、日本のノーベル賞候補者選考委員をつとめたY君は亡くなり、今はいない。

同窓会だが、恩師の姿はない。生きておられても皆九〇歳代三年前には一人来ていただいたが、今年はお呼びしなかった。

毎回参加している私も、十五人は知らぬ人だった。もっとも同学年で十クラスもあり、五百人の卒業生だったから、無理もないことであるが…。

参加者は、東京、埼玉から各二人。奈良、大阪からそれぞれ一人ずつ、福岡から一人と、遠くからも駆けつけた。県内では熊本から三人、山鹿、天草、水俣から各一人ずつ参加している。学校の教師だった人が多く、参会者の中にも十人もいた。私の長女、長男、次男、が小学時代に、お世話になった女教師もいた。

「長男のまこと君は、どうしているの?」「今熊本高校で世界史の教師をしている」と私。



「アラ、私の孫がその生徒で、一年と二年にいる。名前は〇〇と△△だ」と言って、名前をメモして渡してくれた。自分の教えた生徒が、今は自分の孫を教えているという縁である。忘れぬうちに、私も帰宅してすぐ長男に電話し、「声をかけてやってくれ」と頼んだ。

宴もたけなわのとき、世話人の一人から提案があった。「今回でこの会も終止符を打ちたいが、みんなの意見を聞かせてくれ」という。十五年間も世話してくれたのである。大変だったろうと思う。

私も小学、中学、大学の世話係の一人である。千丁（第二）小学校は五年ごとに、千丁（中央）

中学は、オリンピックのある年で、四年ごと。熊本学園（商科）大学の同窓会「志文会八代支部」は二年ごとである。その経験からすると世話人の気持ちもよく解る。世話人会から日時決定、会場確保、案内状発送、返事のまとめ、会計報告など、確かに大変なのだ。

もう一つの大きな理由は、八十にもなると、体力の衰えなどから、世話人が会の世話ができなくなるのである。「八十になったので、やめた」という先輩達の話もよく聞く。その通りだと思う。

感謝はされるが、確かに億劫である。私も昨年、中学校の同窓会をお世話したが、それからまだ一年も経っていないのに「集まろうか」と言ってきた者もいる。それだけ暇であり、懐かしいのである。

同じ八代に住んでいても、顔をあわせることも少ないし、あわせても「同級生だ」というても話をすることもないが、やはり無いよりはあった方がよい。

結局「まあまあ、もう少し」ということで終わった。記念の集合写真を前にしているが、自分では「若い」と思っているが、写真は嘘をつかない。みんな年をとっている。日々体力が弱って

いるのも実感している。はたして三年後はどうなるであろうか。楽しみである。

久保田尚夫（高七回卒）

高9回卒

昭和32年卒

後期高齢者の仲間入りも間近になり「同窓会開催」



平成二四年十月、「卒業五〇年記念及び古希祝賀同窓会」から五年ぶりの開催でした。

八代在住の女性の皆さんが、幹事となり、企画から全て担当し盛会な同窓会となりました。

遠路からの参加もあり、久しぶりの再会に旧交を温めました。盛会で名残惜しさもありましたが、来年（平成二六年）五月開催予定の「喜寿祝賀同窓会」での再会を願いつつ、一次会へ。

垣田美彰（高九回卒）

高10回卒

昭和33年卒

『北陸路』で空の安全を学ぶ

恒例の「関西三三会バス・ツアー」は、平成二五年五月七日から九日までの三日間を福井・石川の両県にまたがる「北陸路」を訪ねました。

貸切バスは大阪なんばを出発大阪空港で十三名、新大阪駅で五名、米原駅で五名が乗り込み総勢三十名を乗せて北陸自動車道を北進。バスの右手車窓には滋賀県最高峰の伊吹山を、左手には日本最大の湖びわ湖と竹生島を遠望しながら丸岡城をめざす。



超越して妖艶さを感じさせてくれる。

旅の二日目、日本海唯一の戦闘機部隊が所在する「航空自衛隊小松基地」。この基地の初代飛行隊長が

純白に光輝く白山連峰の残雪が目に入ると、程なく現存する日本最古の本造天守閣の「丸岡城」。地元の観光ボランティアガイドに、屋根が全部石瓦で葺かれていることや、一筆啓上の謂われに伴う日本一短い手紙の発祥地等と説明を受ける。

次の訪問地は「東尋坊」。日本海からの激しい荒波で浸食された断崖絶壁は、北陸随一の景勝地。五月初旬の気候とはいえ白波をたてて吹き荒ぶ潮風を受けながら、東尋坊の看板を囲み記念撮影。

初日の宿泊は越前加賀海岸国立公園内の「休暇村越前三国」目の前には西色に染まった波静かな日本海。静寂の中で水平線に沈みゆく夕陽を凝視。絶景を

同期の橋口健治君。彼のお世話で基地内見学が叶う。案内役の若き勇士たちの洗練された勇姿と、日本の空の守りの要として日夜国籍不明機の警戒にあたる「F-15J戦闘機」に間近に触れ、日々安心安全の生活がおくられている事を学び、次の訪問地「安宅の関」へと向う。

旅はこの後も「永平寺」→山代温泉→越前竹人形の里→一乗谷朝倉氏遺跡」等々を訪ね、二泊三日のバスの旅を無事に終える。来年も、まだ少しだけ若さが残っている十回生の仲間達を五月の連休明けに「大山・米子・境港・皆生温泉」へみどりの風を感じに案内の予定。ご期待下さい。

（関西三三会 幹事長 橋口敏昭）

八高15回卒

昭和38年卒

古希同窓会

五月二十五日(土)午後二時八代宮に参拝後、バスで八代高校、外港、万葉の里水島、荒瀬ダム、妙見宮などを見学しました。バスの中では妙見祭のビデオを見たり、中には、ふる里の今を奥様も同



乗して見せた人もいました。

出席者は、竹内頼夫先生を始め九十四名で、恩師や同級生の物故者への黙祷が始まり、久しぶりに会う旧友達は、昔に戻った様で、時間もあっという間に過ぎていきました。校歌の合唱をしてお開きになり、二次会、三次会...と町に繰り出しました。一方欠席者の人は、国際トライアスロン大会への連続二十回目の出場や野球のシニア全国大会の予選会、また病気のため等でした。今回は出席者も多く、同級生の皆様から、電話や、手紙、ハガキ等で楽しかった、良かったとお礼などたくさん戴き、この紙面をお借りして皆様方のご協力に感謝申し上げ、再会を楽しみにして筆を置きます。

白石國光(高十五回卒)

八高18回卒

昭和41年卒

八高18回卒同窓会報告

本年一月二日、ロイヤルホテルで昭和四一年三月卒業、一八回生の同窓会を開催しました。参加人員八三名。欠席ながら何等かのメッセージを寄せられた方々一〇名。我々の時代は少し詰め学級一〇クラスで、卒業

生も五〇〇人を越えていた筈です。から大体四〇%の方々の近況は分かりました。

一方で既に鬼籍に入られた同級生も三〇人を越えます。「集っても年金と病気の話ばかりじゃあ、やりきれないぞ。元気を吹き込む会にしよう」と一六人のお世話係の仲間と意思一致しての同窓会。



一組森先生、四組川上先生も御参加下さり、北は盛岡(一〇組村上君)、南は那覇(三組中村様)等全国各地から集まって

の賑やかな会になりました。

川上先生の往時と少しも変わらないユーモア溢れる御挨拶や、森先生の謹厳実直な御雰囲気は私達を一瞬のうちに「一七歳の生徒」に帰して下さいました。愉快な二時間でした。

開催時期を「正月やお盆にしないで、皆少しは時間的に自由のきく世代になったのだから工夫すれば?」というアドバイスもいただきました。又機会を設けます。

眞木 誠司(高十八回卒)

八高22回卒

昭和45年卒

還暦同窓会

平成二十四年十一月二十二日妙見祭前日、御夜の日八代ロイヤルホテルにて開催。全員が六十歳を迎えた年に行おうと数年前から計画を立てて集まりました。この日を目標して結成された音楽メンバー「還音(カノン)のウエルカム演奏に迎えられる、高校時代の制服姿で登場した司会者の声を合図に会が始まりました。

恩師七名、同窓生百六十八名が集まり、遠くは山形・宮城・埼玉から駆けつけてくれた友来て良かった」獅子舞のサプライ

ズに若き日に観た妙見祭の思い出が甦りました。途中二年生のクラスにその後一年生のクラスにテーブルを交替し、旧交を温めました。が自分が何組だったのか忘れた友もいて、ワイワイガヤガヤ非常に賑わいました。

二次会はキャバレー白馬。百二〇名が集い中央ホールでのフォークダンスは芋の子を洗う状態の中、高校三年生を地で行く若き日の思い出に浸りました。楽しいひとときを有難う、そしてこの日の為に準備に関わった友に感謝します。

森 律子(高二回卒)



八高座談会 2013 年

8月16日(水) 於セレクトロイヤル八代

高21回(昭和44年3月卒)から高25回(昭和48年3月卒)まで



新校舎での授業開始!

ところが、グラウンドの石ころ拾いに明け暮れた毎日。

憧れのあの人と踊りたい!! 運動会後のフォークダンスは、恋のチャンス。

ノンポリで伸び伸びとした学風、勉強より遊び? 城南の雄校に陰りが!

それでも、男女仲良く楽しく過ごした学園生活。

八高版青春学園ドラマここにあり!!

出席者(敬称略)

森 悦三先生

亀山 勉先生

(高21回)

舛田 雅生

中尾 孝子

(高22回)

名和 長承

森 律子

(高23回)

山川 敏光

柴崎 和美

(高24回)

福田 千鶴男

森永 真澄

(高25回)

松本 章

田上 智子

(高10回)

岡山 元紀

同窓会会長

司会 (高25回)

橋本 和久

広報委員

(会長) 本日は、同窓会報「道」の中で、

最も注目を集めています八高座談会にご出

席いただきありがとうございます。高一一

回生は、一年次入学から卒業まで新校舎で

過ごされた初めての学年であり、その意味

で歴史的な学年です。皆さんが入学され卒

業された昭和四一年から四七年は、全国的

には、東大闘争など高まる学園紛争や連合

赤軍のあさま山荘事件など大変な時代でし

たが、当時の八高はどうだったか、お話を

お聞かせいただければ幸いです。よろしく

お願いいたします。

(司会) 本日は世界史の森悦三先生と国語

の亀山勉先生をお招きしています。まず、

自己紹介を兼ね皆さん方の八高時代の思い

出話をお聞かせください。

(森先生) 私は、昭和三九年の新校舎へ



森 悦三先生



亀山 勉先生

の移転に立ち会いました。新

校舎移転の理由は、生徒数の

増大と自動車の騒音問題でし

た。当時行われた生徒へのア

ンケートでは、騒音で授業の

六割しか聞き取れないという

事でした。どうりで、世界史

のテストの平均点が六五点な

のかと思いました。(笑)

全国的には、学生運動が盛

んな時代でした。自治会が中

心となって「長髪問題や制帽

廃止」といった取り組みを

していました。全学的な盛

り上がりには欠けていたよう

に思います。それより、当時

の八高生は、喧嘩したり、た

ばこを吸ったり、酒を飲んだ

り、元氣な生徒が多かったと

思います。職員室では、生徒

達のけんかの話が話題になっ

ていました。びっくりしたの

は、柔道のクラスマッチで、

決着がつかなかった二人が、

めたので、それを見物しようと、授業そっちのけで生徒達が集まってきて、大きな人垣ができたのを覚えています。その他に、八代駅前前の乱闘、坂本河原の決闘の話は有名でした。(笑) ポート部の顧問を一年間しました。女子が、全国大会に行ったのを皮切りに男子も頑張つて、九州大会で優勝したこともありまして。修学旅行は二年生で行うと、職員会議で決まったものの、翌年、大阪万博が開催されたので、「ここ行かんば」という事で、結局、従来通り一年生が行くことになりました。(笑)

(亀山先生) 私も、三九年の

着任でした。新校舎への移転

の年でしたが、校舎は建設途

中で、授業は、旧校舎を併用

して行っていました。運動場

は、石ころだらけで、体育の

時間は石ころ拾いが主で、そ

の年は、体育大会はありません

でした。当時は、宿直制が

あり、教室一部屋が宿直室で

した。放課後、女子生徒たち

が遊びに来ていました。あの

頃は、精神的に豊かな癒しの

ある学校生活でした。新聞

部と、弓道部の顧問をしまし

た。弓道の練習は、松井神社

の弓道場で行っていました。が、八高に弓道場を作ろうという機運が高まり、佐賀や長崎の高校の弓道場を視察に行き、皆で図面を作り、昭和四六年四月に野球場のバックネット裏に弓道場が完成しました。結果、練習に励み、二三回生を中心に編成されたチームで全国大会に出場することが出来ました。

(舛田) 幼少の時から、女子生徒の糊のきいた大きな白い襟のセーラー服に憧れて、八高に入学しました。が、時すでに遅し。その制服もすでに変わっていて、がっかりしました。おまけに、毎日、運動場の石ころ拾い。「あーあこんなじゃなかったのになあ」と悔しかったのを覚えています。三人の子供たちも皆八高に通いました。その間PTAに携わることが出来ました。八高とは今も何らかの関係でお付き合いさせていただいております。

(中尾) 八高は、バンカラな校風の強い高校でした。私は、三年間自治会の事務局をしていました。個性あふれる会長さんたちのもと、長髪問題を中心に頑張ってきました。二年生の時ビートルズが来日

し、日本中が熱狂しましたが、先生から、「学校を休んで見に行かないように」と厳しく注意されました。文化祭では、助人でバンドのボーカルをしました。何曲も歌って、好評でしたが、アンコールで歌詞を間違えてしまい、恥ずかしかったです。

(名和) 私は、体育が好きだったので、先輩たちが石ころを拾いつくしてくれなかったのも、残念ながら体育の時間は石ころ拾いに明け暮れました。(笑) プールもなかった。部活のバスケットが終った後、ザブンとプールに入るのが夢でした。二年生の時、朝のホームルームでは、担任の先生が出席を取らず、一時限目に間に合えばよいとのこと、のんびりとゆっくり登校していました。3年生の時、長髪問題について体育館で全校集会が行われ、5月に長髪が解禁になりました。

(森) 私は、薦の絡まる校舎に憧れ、一生懸命勉強し、八高に入学することが出来ました。が、すでに新校舎で、ちょっと残念でした。テニス部に入りましたが、親から「運動部は、勉強と両立せんけんダメ」と言われ、一年で辞め、

後は書道部に入りました。体育祭は非常に華やかで、



舛田 雅生さん

当時の世相やキャラクターを題材にした大きな看板が掲げられて、すごいなあと感じました。修学旅行は1年生の時、京都、箱根、日本平に東京でした。楽しい思い出一杯です。

(山川) 入学時のオリエンテーションが終わった途端舛田先輩たち三年生がいきなり、教室に乱入して来られ、「八高の生徒自治会とは何ぞや」と随分と熱弁されたのを覚えてます。そういう訳で、三年間自治会運動に関心を持っていました。

(柴崎) 私も、小学校時代の思い出として、旧校舎で行われていた体育祭の仮装行列を鮮明に覚えています。それに憧れて、八高に入学したといっても過言ではありません。二、三年生を市川先生に担任していただきました。非常にやさしい先生で、男女交際やたばこの問題など、非常に寛容な方で何でも大目に見てくださいました。(笑)



中尾 孝子さん

一年生の時から剣道部のマネージャーをしていました。舛田先輩や古閑先輩(同窓会報スタッフ)方に可愛がられ、楽しい幸せな三年間でした。

(福田) 一年の三月に修学旅行で大阪万博に行きました。アメリカ館の月の石を見たくて、長時間並びました。三年の時体育祭で応援団長をしましたが、当時運動場は雨の後の水たまりがひどく、運動場の雑巾がけですいぶん苦労しました。体育祭終了後にはフォークダンスがあり、お目当ての人となかなか踊れず、残念な思いが残っています。(笑)

体育祭の後は、決っていくつかのカップルが出来て、屋上でデートしていましたね。

(森永) 三中から入学してきましたが、いきなり一クラスになり、人の多さにびっくりしました。修学旅行で、たくさんの友達が出来て、うれしかったです。植柳から橋を二つ渡っての自転車通でした



名和 長承さん

が、雨の日は大変でした。大きな雨合羽をきて、濡れないようにスカートはズボンに入れ、男子の様な恰好になり、苦労しました。三年の時の仮装行列が一番の思い出でした。初めていろんな人のお世話ができ、楽しかったです。

(松本) 入学した頃はもう、先輩方が大分石ころを拾っていてくれて、運動場は随分ときれいでした。(笑) 私達は、入学初めから長髪でした。當時は、全国的な学生運動の余波もあり、私の周りの皆は、あんまり勉強していませんでした。担任の古川先生の命令で、私を含め同じクラスの4名が、夏休みの午前中、先生の自宅で熱血指導を受けました。三島由紀夫が自決した時、先生が涙を流して報告されたのですが、私たちの中では「どこん三島や」といった具合でした。(笑) 當時は、先生方が組合活動の一環でしょ、うか、校門に立っておられて、そのせいか、遅刻はご放免の



森 律子さん



山川 敏光さん



柴崎 和美さん



福田千鶴男さん

時代でした。修学旅行は自由参加だったので、私は、行きませんでした。帰ってきた友達には多くのカップルが生まれており、そのことが、高校時代ずっと悔しかったですね。(笑) 1年の時に、体育祭の応援団に入りました。怖い先輩方から随分鍛えられました。クラブは古島団平さんの山岳部でした。合宿は最高でしたね。クラブ対抗リレーには、山鹿高校の山岳部の友達が飛び入りし、最後のフォークダンスまで、バレーに参加していました。(笑)

家庭科室に寝泊まりして、朝早くから八代宮まで走っていき、石垣の上を何周も走らせられました。家庭科室に帰った後、チョロチョロしか出ないシャワーを浴びて、課外へ出なければいけませんでした。非常にきつかったです。正直、怪我して練習を止められたらなど、本気で思っていました。(笑) その合宿を契機にクラブを辞めました。(笑) 修学旅行の東京での自由時間の時でした。制服の下に私服を着て旅館を出発し、後で制服を脱いで、東京中を見学して歩きました。(笑)

**一致団結！
夜を徹して準備した八高祭**

(司会) 私の八高時代は、男女とも非常に仲の良いクラスでした。3年の時クラス全員で日奈久にある先生の家へ遊びに行つて、ご飯を御馳走になったことがあります。「たばこは吸わんとか」という

先生の冗談で、中には調子に乗ってたばこを吸おうとした者がいましたが、厳重に注意されました。(笑) 皆さんの八高時代の逸話をお聞かせください。

(山川) 八高祭の準備の話ですが、午後8時には下校しなければならなかったため、近くの友達の家に集まり夕食を食べ、深夜0時一分に再び八高に集まり準備を再開していましたね。(笑)

(柴崎) 三年の時の仮装行列で、担任の市川先生が植木等の「スーダラ節」を真似てステテコに腹巻姿で登場され、大爆笑だったのを覚えています。体育祭の時は、友達の家へ集まって、徹夜で準備していました。先生も元気づけに時々訪ねてこられていましたよ。夏休みにクラスの男女みんなで海水浴を兼ねてキャンプしたこともありました。何の問題も起きず、楽しかった思い出ばかりです。

(松本) 体育祭の看板は、コンクリートパネル二枚を合わせて作りしました。櫓は、三年の男子みんなで、材木は材木屋へ、飾りの孟宗竹は二見の山へ行き、担いでトラック

に乗せて運んできて、業者の方に作っていただきました。看板だけは自分たちで掲げました。大きな針金で括って夜遅くまでかかりましたね。仮装行列では、古島団平先生がピンポンパン体操のお姉さんの役をされました。ものすごくお茶目で可愛かったな。(笑)

驚異の記憶力 古島団平先生

(名和) 団平先生と言えば、入学の時みんなの写真を見て顔と名前を覚えられ、一回目の授業の時、一人一人顔をじつと見て、全部当てられたのにはびっくりしました。記憶力が抜群で、授業中一回も教科書を見られずじつと黒板に書かれ、書き終わったところから消していかれましてね。凄い能力でした。

(松本) 昭和五二年、団平先生が退官される時、山岳部のみんなで送別会を開こうという事になりましたが、山岳部OBの名簿はありませんでした。そこで、先生に尋ねたところ、百名以上のOBの名前を全部覚えておられ、それをもとに案内状を作成しました。六〇名を超える方が送別

会に出席され、盛大でした。団平先生は皆からよく慕われていました。

(会長) 団平先生は、授業には教科書を持たないで、教鞭とチョークだけを持って、来られました。

授業中おしゃべりをする、先生はロンパリのやぶにらみでしたが、その生徒を正確に鞭で叩いておられました。(笑)

私が、東京から八代に帰ってきた時の話ですが、当時関東には一八〇〇名近くの同窓生が住んでいましたが、皆の名前と住所を全部覚えておられました。それには、びっくりしました。

(森先生) そう言えば、団平先生と土生先生は、毎年、関東同窓会に呼ばれていました。その席で、皆の名前と住所、それに両親のことまで鮮明に覚えておられて、一人一人に挨拶されていました。

**フランクな男女交際
屋上はデートの定番スポット**

(司会) 一年生の時でしたが、朝のホームルームの時間に三年生が来られて、「恋とは何ぞや」といった恋愛論を



森永 真澄さん



松本 章さん



田上 智子さん

熱弁されていました。それを契機に三年と一年のカップルが良く出来、屋上のベランダに座ってデートされていました。男女交際はどうでしたか。

結婚しました。一年生の時に、八高新聞で「男女交際について」という特集が組まれていましたが、当時、すでに八高生はフランクに付き合っていたようでしたね。

(柴崎) 体育祭や修学旅行が終わったら、何組かのカップルが誕生していました。その当時、私はおてんばの部類に入る生徒でしたので、男女交際の話は全くの無知でした。月日が経って、同窓会をする、誰と誰が交際していたとか、デートの場所や恋文などの話で盛りあがり、なんだ、皆やってたのかと思いました。

(山川) 私たち学年は、同級生結婚が多いのですが、皆さんの学年はどうですか。

(松本) 私も同級生と結婚しています。彼女のことは八高時代、全然知りませんでした。卒業して一〇年目の同窓会では、すでに一四組のカップルが誕生していました。その時出会って、仲良くなって

(舛田) 私達の頃は、その手の問題は一部のよか男とよか女に集中していましたね。友達にモテるやつがいて、引出しの中は、ラブレターとチョコレートで一杯でした。わずかな数名の方が、付き合っておられたようですが、その他大勢は、手も握ったこともない人ばかりでした。

(柴崎) 当時は、携帯電話がない時代でしたので(笑)連絡には仲介役がいました。家に電話とか、もつてのほかでしたよ。

(森永) 私は一回だけ仲介役をしたことがありました。クラスの男性に頼まれて、同じクラスの女性への求愛の手助けをしました。三人でボーリング場に行ったのですが、結局ダメでした。

(田上) 同級生に1年から警察官とずーっと付き合っていた人がいました。毎日送り迎えでした。結局、卒業後すぐに結婚されましたが、お堅い職業の警察官が、高校生と付き合うなんて、それってありですかね。(笑)

(森先生) たいがいのカップルは、節度ある付き合い方をしていました。中には、非常に仲が良く、いつも一緒にいて、度を越しているようだったもので、注意したことがあります。結局、そのカップルは卒業後結婚しました。八高生の場合、男女交際は非常にフランクなもので、周りの皆が認めるような明るい付き合いの方が多かったと思います。

もはや城南の雄ではない!!
伸び伸びとしたおらかな
学園生活の反面、進学状況が悪化

(会長) 全国の高校では大学紛争の高まりを受け、政治的な学生運動が起こっていました。八高は「八代大学」という言葉に象徴されたように、元来「フンボリ」の学風で、のんびりとした学校でした。だからでしょうか、これ

と言って勉強に励むことがなく、進学面では随分と後退し「もはや、城南の雄とは言えず」といった状態で「どうやって学力を伸ばすのか」が大きな課題となったそうです。

そこに現れたのが、昭和四〇年から昭和四四年六月まで続く「長髪禁止令」でした。全国的な学園紛争のはけ口が、八高では「長髪問題」だったと言えるのではないのでしょうか。

亀山先生が担任をされた頃、八高の進学状況は改善されましたか。

(亀山先生) たしか着任した時、久しぶりに東大へ行った子がいきました。毎年、浪人して東大や京大に行っていたようです。

(山川) 同級生の村岡晋一君が自治会長の時が長髪問題の頂点でした。彼の指導の下に、授業をポイッとコットして緊急全校集会を開こうと連日集まって計画し実行しました。授業中(ホームルームの時間)に緊急の校内放送を行い、生徒全員を体育館に集合させました。結果、彼は無期停学になりました。その後彼は、中央大学の哲学の教授となり、

最近、付属高校の校長を務めたそうです。

(福田) 私も覚えています。入学して間もないころ、確かホームルームの時間だったと思いますが、先輩方に、長髪問題で体育館へ集合させられました。一年生で参加したのは半分以上でしたが、八高全体が、騒然としていたことを思い出しました。

(舛田) 私たちの時は浪人するのが当たり前。現役で目標を下げて受かるより、浪人して、希望の大学へ行くのがステータスでしたね。

(松本) 先生から、「八高生は入った時は良かばってん、後はさっぱりしたい。お前たちや、いつも何しよったか?」とよく言われていました。皆、勉強より他のことが忙しかっただすね。(笑)

(柴崎) 当時の風潮でしょうか、卒業式には仰げば尊しを歌いませんでした。教室に帰ってから、誰からともなく、皆で歌い始め大合唱になりました。担任の市川先生の目頭が熱くなっておられました。

(森先生) 八高に勤務していたころの八高生は他校に比べ、課外や宿題など勉強面での締

め付けは軽かったと思います。そこで、よく言えば伸び

伸びと、悪く言えばのんびりとした学習環境でしたので、現役での進学状況はあまり良くなかったですね。しかし、三年間伸び伸びと生活した結果、卒業してからの一〇年後、二〇年後の社会での活躍は、目を見張るものがあります。伸び伸びとした校風の中で育んだそれぞれの資質を、生かすことが出来たと思っています。

全国にいる旧友達との出会いを大切に！ いつまでも続け！ 八高同窓生の絆

(司会) 最後に、八高同窓会に対しての思いをお聞かせください。

(舛田) 私たちの学年は、卒業一〇年目を迎えた時、それまでクラス毎に同窓会をやっていたのですが、全クラス一緒にやろうとなり、学年同窓会をしました。それから三年度ごとに、学年同窓会をしています。五二歳の時全体同窓会の幹事学年をしました。八高の良いところは、強制ではなく自然発生的に、大同窓会の

幹事学年を務めることになっていきますね。

全体同窓会では、全国で活躍されている先輩方や様々な分野で頑張っている後輩たちと会え、同窓会の一員であることの誇りを再認識することが出来ます。八高に行けば、東大や早稲田・慶応にだって行ける。社会の最前線でリーダーとして働ける。そんな可能性を秘めた高校だと思えます。八高を巣立っていく子供たちの将来への可能性を育てながら、卒業後数年たって、八高に行って良かったと言える八高であり続けることが大事だと思っています。(拍手)

(名和) 同窓会報で取り上げていただいたのですが、八高の始まりは、私が住職をしています出町の光徳寺でした。明治政府の国策である西洋に追い付け追い越せの号令の下、明治二九年に済々黌の八代分校として開設されました。授業は江戸時代末期から仏教の講義場として使用していた部屋で行われていました。三年ほどして、新校舎が出来て、移っていききましたが、校舎ができる前から、学校が開設されるとは、当時の近代教育への意気込みが伝わっ

てきますね。先代からの話ですが、教室の西側に本堂があり、その日陰になって、教室が暗くなったので、午後三時頃からは蝋燭を灯して授業があつたそうです。子供の頃、その教室跡で遊んでいましたが、「第二学年乙組」という木札が下がっていたのを覚えていました。

(山川) 昨年、還暦同窓会をしました。全国から一七五名の参加がありました。開催に当たって留意した事は、とにかく楽しい雰囲気と同窓会をやるうという事でした。八高の同窓会は楽しいものだという雰囲気を作り上げることが出来れば長続きできるのではないかと思います。

(福田) 私達は、四年ごとに同窓会をしています。忘れないようにと、オリンピックの年に開催しています。今年は還暦の年なので、還暦同窓会を計画しています。全体同窓会は、年齢層の幅があり、若い人達が参加しづらいのが現状です。そこで、思い切って一〇年間の幅で区切って各々で中同窓会として開催したら同じ世代もあり、話がはずむのではないのでしょうか。より多く同窓生の参加が図れる

と思います。

(森永) 高校二年の時からずーっと仲良くしていた友達が、がんで亡くなりました。彼女と、百周年の全体同窓会に出席できたのが思い出になっていきます。小さいことだけど、毎年一回、同級生の元気な顔を見てみたい気持ちで出席したいと思っています。

(松本) 全体同窓会の幹事学年の時、学年同窓会のホームページを作成し、一二〇名位の方のメールアドレスを登録しています。何かあると一斉配信で、連絡することが出来ます。連絡体制をしっかりとあれば、全国どこでも会うことが出来ると思います。私は、司会の橋本君達四、五名と、事あるごとに寄って飲んでいきます。

(森先生) 学年同窓会の案内には、委員長名で来ておりますが、クラス毎の世話人の名前前で案内が来ると、より身近になって参加しやすくなると思います。

(亀山先生) 皆さんが八高で過ごした時代は、東大紛争やあさま山荘事件、三島由紀夫の自殺など、社会の大きな転換期でした。私は国語の教師でしたので、三島由紀夫の自

殺やあさま山荘事件などを授業中に話しましたが、興味を持つ生徒は非常に少なかったと思います。本当はどうだったのか、皆さんに聞こうと思っていましたが、なかなか糸口が作れず聞くことが出来ませんでした。しかし、運動会や文化祭で皆さんが楽しく伸び伸びとした生活をしていただお話を聞け、嬉しい思いで一杯です。

(司会) 本日は皆様方の貴重なお話を聞く事が出来、ありがとうございました。まるでテレビの青春学園ドラマを再現したみたいで楽しかったです。本日は有難うございました。



橋本 和久さん



岡山 元紀さん

母校だより

中高一貫教育研究推進部長 松田伸也(文責)

中高一貫校として

中高一貫教育校になって五年目、本校の学舎では中学一年から高校三年までの千名近い生徒が、互いに切磋琢磨しながら日々頑張っています。

八高生が、八中生の学校生活や学習のサポートを行う取組「ピア・サポート」や「定期考査学習サポート」が行われており、中高一貫校としての縦のつながりもできつつあります。

八高生は八中生のよき模範となり、八中生はそんな先輩方の後ろ姿にあこがれ



ピア・サポートの様子

を持ち、お互いに刺激をうけながら日頃の活動に取り組んでいます。

本校生の活躍

八代高校には三五の部活動・同好会があり、文武両道を目指し日々の活動に取り組んでいます。

今年の高校総体では、陸上競技部・水泳部などが上位入賞を果たしました。中でも、陸上競技部の佐々木慎吾君、吉川巧哉君は全国高校総体に出場し、佐々木慎吾君は男子走高跳で全国七位入賞を果たすなど、顕著な成績を収めています。

さらに、同じく陸上競技部の佐々木健太君は、先日行われた国体陸上競技の男子四〇〇mリレーの熊本県代表に選出され、全国でもトップランナーである江里口選手や末續選手と同じチームのメンバーの一員として全国四位入賞を果たしました。

その他の運動部では、昨年度から今年度にかけて、

弓道部・女子バレーボール部・空手道部が九州大会にすすむなどの活躍を見せています。



城南地区体育大会の1シーン

文化部では、放送部・美術部が全国大会に出品し、特に放送部はNHK全国放送コンテストラジオドラマ部門で入賞しました。

輝く八高生と鳳雛祭

八高最大のイベントは何と言っても「鳳雛祭」です。四年前までは「八高祭」と言っていたこのイベントは、中高一貫教育校になるにあたり、名を改め、「鳳雛祭」になりました。

今年度は鳳雛祭文化の部が九月七日・体育の部が九月

一五日に行われました。両日ともに天気に恵まれ、すばらしい鳳雛祭になりました。

文化の部は、オープニングのピアノ演奏から始まり、日本舞踊・放送部の朗読劇・演劇部の創作劇と続き、フリータイムでは、各クラスや部活動の展示・食品バザー・有志によるフリーステージやバンド演奏などが盛りだくさんの内容でした。フィナーレでは、吹奏楽部の演奏に合わせて、職員もダンスを披露し、大盛況の中終了しました。

体育の部は、三年生が主役となって各団を引っ張り、応援演舞・フリーダンス・団席後方のパネル(シンボルと呼ばれています)などで、存在感を発揮しました。



鳳雛祭(文化の部)の様子

中一から高二までの生徒が参加して庄巻のパフォーマンスを披露する「マスケーム」は、集団美を追究したもので、多くのお客様から盛大の拍手をいただきました。



鳳雛祭(体育の部)でのマスケームの様子

最後は全校生徒で肩を組んで校歌を斉唱し、中高ともに一体感が得られた一日でした。

鳳雛祭の来年度の日程はまだ確定していませんが、ホームページ等でお知らせしますので、ぜひお越しください。ご来場をお待ちしています。

八高史

校旗の制定

校旗については、本校の美術科教師の正木次郎教諭（昭和二十七年～四十八年在職）にその図案作成が委任された。以来正木教諭は、済々黌をはじめ熊高、第一など伝統のある各学校の校旗をつぶさに調査し、図案や配色などを細かく検討され、それらを参考にし、また本校の校風・伝統などを考慮に入れながらいくつかの図案を考案された。それらの案を三二年五月二二日に委員会で検討し、さらに職員会議にかけて最終的に決定された。そしてその制作を七月中旬ごろに業者に発注し、二学期初めに完成した。費用は付属品を除き、約一万円であった。

新しい校旗は、本校のスクールカラーである緑の生地に本校の帽章を描いたもので、質素にして剛健な八高精神を表現したものである。

なお、その制作の意図、苦労などについては、『白鷺創立九十周年記念誌』（昭和六二

年三月）に正木教諭の回顧文が載せられているので、それを紹介しておく。

校旗のデザイン 正木次郎

松江城の旧校舎時代のことです。何年何月何日とは記憶していませんが、校旗のデザインをするように命じられました。まず考えたことは他校とは違ったものを作りたいと言ったことでした。

明治二十九年三月文部省より済々黌の分黌として、八代郡八代町に八代分黌の設置が認可されており、本家に当る済々黌の校旗はどんなだろうかと、出張させてもらい見学に行きました。さすが歴史が古いたけあって、白地に校章を中央に、周囲は赤い房がついていました。校長さんが誇らしげに説明されたのは、校旗の竿の先端に菊池千本槍の穂先をつけてあることでした。いかにも肥後国の尚武の精神が感じられました。

男女共学のことでもありませんので、第一高女はと調べますと、紫紺地に白抜き梅の

デザインです。済々黌が桜ですから、梅に桜とは対照的なと思いました。

また明治三六年四月に発足した熊本中学（熊高）の徽章は、桜から現在の三ツ葉銀杏に改められています。これは、銀杏城（熊本城）にちなんだものです。

さて、校章を中央に持つてくることは動かしたいことですから、他校と違ったように考えると色彩と旗の周囲に房を付けるかどうかの二点にかかってきます。将来、栄えある会場に校旗が翻っている様子を想像すると、房の重みでだらりと垂れ下がっているよりは、房のない方がすっきりするよつに思われました。

色彩については、和田三造編日本標準色協会発行の色名帖（昭和一〇年四月発行）の一七一色の中から選ぶことにしました。暖色系統と寒色系統のいずれかと考えると、校旗は式場など厳粛な場所での使用が多いと思われるので、見る人の心理状態から寒色系統がよろしかろうと思えました。色名帖から次の四色を選びました。

一、かちんいろ
褐色 勝色 搗色 深藍

二、かついち
活色 勝色 深月

三、はなだいろう
縹色 茄灰

四、みるあい
海松藍 深冒緑

これらの色を絵の具を混色して出すのは、見本通りにはなかなかできないものです。結局はどの色だと決めるのはむづかしいのですが、四色を力ケテルしたような色とでも思つて頂きましょう。

さて、一枚は描きましたが、運営委員会に審議してもらうには、一枚だけでは委員の先生方が判断されるのに、対照物がなくては具合悪からうと思ひ、暖色系の一枚描くことにしました。

五、こつばいいろ

紅梅色 粉紅

で描きましたが、見本よりやや薄めに彩色しました。そうしてこの二枚を職員会議にかけて、寒色系のみに決定しました。

この後は京都の染物業者に注文されたのですが、出来上がりはご覧のものとなりました。



た。

絵の具の色と染色の色とが全く一致することは、至難の業と思われまので、何色かと聞かれて、「かちんいろ」とするか「プラスみるあい」とするかは、皆様のご判断におまかせ致します。

以上『八高百年史』（平成九年三月一日発行）六二二ページ以下より抜粋



◀昭和39年10月 東京オリンピック（代々木プール）
200mバタフライ予選 応援風景
ロイヤルボックス一番手前に昭和天皇の姿がみえる

昭和三五年（一九六〇年）、八高三年のときがローマ五輪の年。国内選考会に出場はしたものの、若けの至りで敗退。それから四年間待って一九六四年に東京オリンピック競泳日本代表に選ばれた。本番前に帰省した折、八高講堂で壮行会を開いていた。いた。「克己心で入賞を目指す」と在校生の前で誓った。

東京五輪水泳競技は十月十一日から代々木総合体育館プールではじまった。二〇〇mバタフ

人生は「二毛作」！

一生健泳 一生水夢



〜高13回卒〜

佐藤 好助

頑張ってます！



▲昭和39年10月 東京オリンピック（代々木プール）
200mバタフライ準決勝5コース（佐藤好助）

入賞うまく行けばメダル獲得もーと期待されていただけに、そのときのシヨックは大きかった。



▲日本短水路マスターズ大会（平成21年5月）
（福岡市民プールにて）

自分自身の健康のために毎シーズン必ずマスターズ水泳大会に出場している。記録は加齢とともに落ちるので、今は心の豊かさを保つためにゆっくり泳ぎを楽しんでいる。目標は八十歳現役スイマー。そのためには心身とも若く、健やかな人生を楽しむと決めていた。

現在、ジュニアやシニアの水泳指導に当たっているが、その当時の教訓を心に秘めて選手や水泳愛好者に伝導している。また、

その後敗因を冷静に分析してみた。青春の全エネルギーを投入して挑んだ東京五輪。国民の期待に応えようと思う強い気持ちでプレッシャーとなり、本来の実力が発揮できなかった。スポーツ選手に必要なのは「心技体」。四年間で培って来たつもりだったが、メンタル面つまり科学的「心」の練習が強化されていなかった。いかなる条件下でも最高のパフォーマンスが出来るタフな選手にならないとメダルは取れないと痛感した。

昭和38年11月（桃園プールにて）東京オリンピックを目指していた頃（八幡製鉄所）
写真向かって左から 佐藤好助・黒佐年明監督・田中聡子さん



▲ジュニア水泳教室で小学生を指導（桃園プールにて）

八高十二回生の誇り



卒業してから五十余年、佐藤好助君は現在も水泳を続けている。高校時代、八代にはプールは二カ所しか無く彼の練習場所は前川だった。激流と戦いながら泳いでいる姿が今も目に浮かびます。彼は進歩するものと思っていたが昭和三六年四月の社内報で八幡製鐵入社を知った。屋外プールではあるが設備の整った環境と日本を代表する黒佐（故人）コーチの指導を受けたこと、練習の積み重ねと本人の努力で東京オリンピックに出場した。高十三回卒として会社の同僚として今でも誇りに思っている。努力の人佐藤好助君の世界マスターズでの活躍を期待して声援を送りたい。

村山 毅（高十三回卒）

やつしろ TOMATO フェスタ 初開催



▲長い行列ができたトマト鍋の振る舞い

1月27日、本町アーケードと道の駅電北で、トマトの祭典「第1回やつしろTOMATOフェスタ」が開催され、約2万人の来場者で賑わいました。

JAやつしろやエフエムやつしろ、商工会議所などによる実行委員会の主催。本町アーケードでは、和洋中のトマト鍋が千人に振る舞われたほか、トマトの早食い大会や地元飲食店のトマト料理販売ブースの出店、ステージイベントなどがありました。また、道の駅電北は、トマトシチュー100人振る舞いやトマトもちつきなどで賑わいました。

第2回のフェスタは、平成26年2月2日に同会場で行われる予定です。

妙見祭PRの大型看板 八代の新たなシンボルに



▲ライトアップ

▲八代駅南側からの眺め

国の重要無形民俗文化財に指定された八代妙見祭を広く内外にPRしようと、日本製紙八代工場のボイラー棟南側壁面に、PR看板が平成24年10月設置されました。日本製紙や多くの市民有志の協力によるもので、看板の大きさは縦18・5m、横21・5mあります。

デザインは、亀蛇（ガメ）をメインに笠鉾や獅子舞、神馬などを組み合わせています。

八代駅南側の国道3号やJR列車などからも、はっきり目に留まります。

夜間は、日没から午後10時まで毎日ライトアップされています。

東陽小学校 開校



▲4月7日の開校式、新しい校歌を斉唱

東陽町の種山小学校、河俣小学校、内の木場分校が統合され、4月に新しく東陽小学校が開校しました。

3月下旬には各校で閉校式が行われ、種山小学校では校歌を作曲した藤芳伸也先生の指揮のもと校歌を斉唱、河俣小学校では戦時中に学童疎開で来ていた沖縄の人たちも駆けつけ、思い出を振り返りました。また、内の木場分校では関西からの参加もあり、最後の一日を感慨深く過ごしていました。

開校式で披露された東陽小学校の校旗は、石橋と生姜をモチーフにデザインされています。

校舎は種山小学校の校舎を引き継ぎ、全校児童83人が徒歩やスクールバスで通学しています。

観光列車 おれんじ食堂 快走



▲新八代駅を出発



▲1号車のキッチン

肥薩おれんじ鉄道の観光列車「おれんじ食堂」の運行が3月24日に始まり、人気を集めています。

デザインは工業デザイナーの水戸岡鋭治さんによるもので、モダンで温かみのあるインテリアが特徴。2両編成で食事や喫茶が楽しめる、車内では懐かしさを感じるカントリミージュックのBGMが流れ、旅の気分を盛り上げます。

新八代・川内間を1日3便の運行で、景勝地では時速約25kmに速度を落として運転。九州西海岸の風景と沿線の特産品を生かした美味しい食事などを楽しむスローな旅です。

メガソーラー発電



▲発電を開始した八代港第一太陽光発電所の一部（中央）

市内でも、メガソーラー発電事業が4カ所で進んでいます。

大日産業が新港町4丁目の自社倉庫屋根に整備している第一期工事が完成し、7月31日に市内で最初の発電を開始。施設名は八代港第一太陽光発電所、発電出力は1・6メガワットです。

また、大林クリーンエナジー（東京都）が日奈久平成町の市有地に建設中の施設（八代日奈久太陽光発電所）は、9月25日から発電開始の予定で、発電出力は2・1メガワットです。

熊本交通運輸は、鏡町の自社倉庫屋根に設置を進めており、発電出力は1・25メガワットで11月の発電開始予定。ヤマエ石油は新港町2丁目の親会社所有地に発電出力1・785メガワットの施設を設置する予定です。

国際定期コンテナ船 増便



▲入港する中国直行のコンテナ船（7/23）

八代港と韓国の釜山港を結ぶ国際定期コンテナ航路に6月、新たな1社が加わり、韓国航路が3社・週3便になりました。

また7月には、中国の大連・青島との直行便と上海航路が県内で初めて就航しました。

中国直行便は、これまで韓国経由で約10日かかった日数を約4日に短縮。便数の増加や輸送コストの削減、時間の短縮で、八代港の貨物取扱量の増加が期待されます。

八代市長に中村博生氏



▲市役所に初登庁した中村博生市長（9/4）

任期満了に伴い9月1日に投票された八代市長選挙で、中村博生氏が当選。9月4日、第3代八代市長として市役所へ初登庁しました。

就任式で市長は、「少子高齢化に伴う人口減少への対応、農林水産業や工業の振興、新環境センターの早期完成など、取り組まなければならない課題が山積している。八代市政の安定化、熊本の副都心づくり、地域経済の浮揚の3つを基本理念に、未来を担う子どもたちが夢を持てる新生八代づくりに全力で取り組む」と決意を述べました。

中村市長は八代市北原町出身で、昭和33年10月生まれ。中九州短期大学を卒業後、平成10年から2期八代市議会議員、平成14年から4期熊本県議会議員を務めました。座右の銘は「平常心是道」。

フードバレー推進協議会 発足



▲出展された食品を試食しながら情報交換

県の県南地域振興策を進めていく「くまもと県南フードバレー推進協議会」が、7月30日に設立されました。

八代、水俣・芦北、人吉・球磨地域の豊富な農林水産物を活かし、食品・バイオなどの研究開発機能や企業を集積させることで、県南地域の活性化を図ります。

推進協議会には、会員として地域の農林水産業者や商工業者、関係団体、行政など約400団体が加盟（発足時）。今後、「会員のネットワーク化」や「人材の育成」「情報の共有・発信」を展開していきます。

この日は、設立記念大会が八代ホワイトパレスであり、講演会や試食会、情報交換会で会員同士の交流が活発に行われました。

個人情報の取り扱いと保護について

(八代高等学校同窓会個人情報保護基本方針)

1. 八代高等学校同窓会における個人情報の定義

個人情報とは、個人を識別できる情報で、氏名、住所、電話番号、勤務先・在学名、勤務先電話番号、最終学歴等の情報を指します。

また、これらの情報のみでは識別できなくとも、複数の情報を組み合わせることにより個人を識別できる情報も含まれます。

2. 個人情報をご提供いただく場合について

八代高等学校同窓会で個人情報をご提供いただくのは、以下の場合となります。

- (1) 同窓会事務局から同窓会会員へ直接依頼する場合
- (2) 同窓生や家族から同窓会事務局に間接的にご連絡いただく場合
- (3) 同窓会会員から同窓会事務局に直接ご連絡いただく場合

3. 個人情報の管理について

八代高等学校同窓会では、個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩または再提供(「5. 第三者への情報提供について」に記載する場合を除きます)などの無いように、適切な管理を実施いたします。

4. 個人情報の利用目的について

ご提供いただいた情報は秘密扱いとし、同窓会会員の管理、および同窓会名簿の発行を含む同窓会の運営に役立てる目的のみに使用します。

5. 第三者への情報提供について

八代高等学校同窓会では、ご本人の同意を得た場合以外は、同窓会会員以外の第三者に提供を行いません。

ただし、警察や裁判所等の公的機関から法律に基づく手続きにおいて照会を受けた等法令に基づく場合や、会員の行為によって同窓会会則等に反し同窓会の権利や財産等を保護するため必要と認められる場合、および人の生命・身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合は除きます。

6. 個人情報管理責任者の配置について

個人情報を取り扱う責任者を置き、適切な管理を行います。

7. 法令等の遵守・個人情報保護方針の改定

八代高等学校同窓会では、日本国における法令等に従った個人情報の管理、利用を行います。

八代高等学校同窓会では、日本国における法令等の変更に合わせるため、個人情報の保護をより確かなものとするため、またはその他の理由により、個人情報保護方針を改定させていただくことがありますので、定期的に個人情報保護方針のご確認をしていただきますようお願いいたします。

平成24年8月25日
熊本県立八代高等学校同窓会

なお、可能な限り、適切かつ迅速な処理を努めますので、個人情報に関する開示の申し出、苦情、相談等は事務局までご連絡ください。

八代高等学校同窓会事務局(八代高等学校内)

TEL0965-33-4138 FAX0965-35-8463

連絡用メールアドレス 85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

ふるさと納税を活用して 母校を応援してください！

■ふるさと納税は、一定の限度内でふるさとの自治体に寄附をされると、所得税と県民税が軽減され、実質2千円の負担でふるさとを応援できる制度です。

■熊本県のふるさと納税「夢教育応援分」を利用すると、あなたの寄附が母校に役立てられ、税控除も受けられます。

■インターネットで簡単に、お申し込みやクレジットカードでの支払い手続きができます！

■県へ10,000円以上寄附された方には、県産品等の感謝の品が送られます！

詳しくは「熊本県ホームページ」をご覧ください

ふるさと納税 熊本県

検索

お問い合わせ先
熊本県税務課 tel. 096-333-2098

平成25年度同窓会行事予定 (H25.4.1~H26.3.31)

平成25年(2013)

- 4月19日(金) 第1回広報委員会(同窓会報、ホームページについて)
- 5月10日(金) 第1回正副会長会(25年度行事・事業について)
- 5月31日(金) 第2回正副会長会(理事会議案について)
- 6月1日(土) 関西同窓会総会「太閤園」にて
- 6月2日(日) 岡山支部総会「みよしの」駅前店にて
- 6月8日(土) 会計監査(理事会議案について)
- 6月29日(土) 八代高校教育振興基金運営委員会
理事会 総会議案審議(予算案を含む)
- 7月6日(土) 福岡支部総会「八仙閣」にて
- 8月2日(金) 第3回正副会長会(同窓会総会運営について)
- 8月24日(土) 同窓会総会(八代ホワイトパレス 高31回担当)
- 8月31日(土) 広島県同窓会総会
- 9月7日(土) 関東地区同窓会総会「浅草ビューホテル」にて
- 10月4日(金) 第4回正副会長会(同窓会報について)
- 10月31日(木) 同窓会報「道」第5号発行
- 11月2日(土) 山口県同窓会総会 湯田温泉「かめ福」にて
- 11月23日(土) 妙見宮大祭 花馬奉納
- 12月6日(金) 第5回正副会長会

平成26年(2014)

- 2月14日(金) 第6回正副会長会(同窓会入会式について)
- 2月28日(金) 同窓会入会式 平成25年度卒業生(高66回)

平成24年度八代高校同窓会会計決算書

(1) 収入の部 (単位: 円)

費 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
繰越金	24,445,224	24,445,224	0	平成23年度より繰越
年会費	5,000,000	5,371,000	△371,000	2,511人分
入会費	1,240,000	1,239,350	650	5,000×248名分(うち中学80名) 徴収漏れ650円(中途転校)
雑収入	114,776	127,558	△12,782	名簿代、寄付、預金利息
合 計	30,800,000	31,183,132	△383,132	

(2) 支出の部

費 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘 要
会議費	400,000	48,582	351,418	同窓会座談会会場費、会議諸経費
印刷費	200,000	100,900	99,100	総会案内状
役務費	800,000	505,561	294,439	郵便・電話・広告・振込手数料、HP管理費
広報費	4,000,000	3,581,678	418,322	会報発行費
備品消耗品費	200,000	36,524	163,476	用紙代、プリンターインク代
慶弔費	250,000	132,504	117,496	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	206,459	93,541	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅費	700,000	479,275	220,725	支部地区同窓会出席旅費
雑費	500,000	259,560	240,440	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
予備費	21,650,000	0	21,650,000	
合 計	30,800,000	7,151,043	23,648,957	

(3) 収支決算の部

収入決算額	支出決算額	残 高	摘 要
31,183,132	7,151,043	24,032,089	平成25年度へ繰越し

(4) 金銭管理状況

普通預金 九州労働金庫	193,364	年会費振込金額	人 数	総 金 額
普通預金 肥後銀行2口	4,757,831	2,000円	2,461名	4,922,000円
振替口座 ゆうちょ銀行	177,100	4,000円以上	50名	449,000円
定期預金 九州労働金庫4口	15,057,496	合 計	2,511名	5,371,000円
定期預金 熊本県信用組合	3,846,298			
計	24,032,089			

平成25年度八代高校同窓会会計予算書

(1) 収入の部 (単位: 円)

費 目	前年度予算額(A)	本年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘 要
繰越金	24,445,224	24,032,089	413,135	平成24年度より繰越
年会費	5,000,000	5,000,000	0	2,000円×2,500人
入会費	1,240,000	1,245,000	△5,000	5,000×249名分(うち中学80名)
雑収入	114,776	122,911	△8,135	名簿代、寄付、預金利息
合 計	30,800,000	30,400,000	400,000	

(2) 支出の部

費 目	前年度予算額(A)	本年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘 要
会議費	400,000	400,000	0	会議諸経費
印刷費	200,000	200,000	0	総会案内状
役務費	800,000	800,000	0	郵便・電話・広告・振込手数料、HP管理費
広報費	4,000,000	4,000,000	0	会報発行費
備品消耗品費	200,000	200,000	0	用紙代、プリンターインク代
慶弔費	250,000	250,000	0	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員歓迎費	300,000	300,000	0	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅費	700,000	700,000	0	支部地区同窓会出席旅費
雑費	500,000	500,000	0	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費(特別会計へ)
予備費	21,650,000	21,250,000	400,000	
合 計	30,800,000	30,400,000	400,000	

◆各支部・地区同窓会連絡先のご案内

- 八代高校関東地区同窓会** 会長:守屋 充男(高10回) 事務局長:中村 静雄(高19回)
 〒103-0004
 東京都中央区東日本橋1丁目6番10号 K・Kビル5階 中村会計事務所
 TEL03-3864-6951 FAX03-3864-6957
 定例総会:毎年9月の土曜日、東京都内の会場で開催
- 八高関西同窓会** 会長:宮崎 正郎(高14回) 事務局長:木邑 公一郎(高23回)
 〒603-8465
 京都市北区鷹峯土天井町31-1 木邑公一郎(高23回)方
 TEL075-494-3711, 090-3670-7602 FAX075-494-3715
 定例総会:毎年6月の第1土曜日、大阪市内の会場で開催
- 八代高校岡山同窓会** 会長:森田 敦史(高14回)
 〒703-8264
 岡山市中区倉富7-7 吉田 高範(高18回)方 TEL・FAX086-276-3979
- 八代高校広島県同窓会** 会長:谷崎 續(高13回) 事務局長:村田 栄治(高28回)
 〒738-0036
 廿日市市四季が丘4-6-14 村田 栄治(高28回)方 TEL0829-58-5455
- 八代高校山口県同窓会** 会長:山下 鐵洋(高14回)
 〒755-0092
 宇部市上野中町4-3 重田 千恵子(高18回)方 TEL090-7122-6159
- 八代高校同窓会福岡支部** 会長:佐藤 好助(高13回) 事務局長:磯部 和之(高23回)
 〒811-1346
 福岡市南区老司2-23-80 磯部 和之(高23回)方 TEL092-565-2232
 定例総会:毎年7月第1土曜日、博多祇園山笠に合せて実施、福岡市内の会場で開催
- 八代高校同窓会熊本市支部** 会長:益田 敬二郎(高15回) 事務局長:坂田 雅孝(高24回)
 〒861-4172
 熊本市南区御幸笛田4-11-5 坂田 雅孝(高24回)方 TEL096-379-0852
 定例総会:隔年10月の土曜日、熊本市内の会場で開催
- 八代高校大分同窓会** 会長:田河 清一(高13回) 事務局長:松本 宏次(高15回)
 〒870-0848
 大分市賀来北1丁目2-40 松本 宏次(高15回)方 TEL097-549-3386

委員 古閑 雄一郎（高22回）

毎回、卒業生座談会のお手伝いをしております。今年は自分の年代の卒業生、グラウンドの石拾いや先生方のお話など、一々相槌を打ちながら聞いておりました。思い出したのが校舎の屋上の事。当時は格好のデートスポットで、夕陽を見ながら語り合うカップルを武道場から見上げて、羨ましく思いながら練習していました。汗くさい青春でした。

委員 岡村 洋文（高25回）

編集時期に入った9月、「2020年オリンピック、東京に決定！」のニュースが世界を駆け巡りました。本誌「道」の中で「頑張ってます！」のページでは、昨年は本田大三郎さん、今年は佐藤好助さんと50年前、東京五輪で活躍されたお二人に原稿をいただきました。「予感?」「偶然?」「まさか?」の驚きでした。それで以前から気になっていた八高体育館のショーケース展示をしっかりと見に行ってきた。上記お二人の東京五輪のほかに、ミュンヘン五輪の田上高さん(故人)の記念品も飾られていました。



八高体育館に展示の1964年のユニフォームと寄せ書きなどの記念品

仕事のお願ひもあり、お二人に連絡をとりましたところ、共にお元気で再度の東京五輪を大変よろこんでおられました。7年後、また八高から若い力…は、どうなんでしょう。

委員 はじめ 親房（高28回）

最近朝早起きすぎて悩んでいます。お酒を飲んだ日は顕著で、深夜2時半には目が覚めます。当然早起きすると、早く眠くなり、午後9時には寝ます。その繰り返しです。あーあ、朝寝坊に悩んでいた若い頃が懐かしいな。

委員 成尾 善明（高49回）

今回の八高史で取り上げた「校旗」の発表は、校歌の発表と合わせて、昭和32年11月20日の文化祭初日に行われたそうです。1200名あまりの生徒、関係者の方々は、どういう思いでその発表を目にしたのでしょうか。そういえば、最近では、2020年東京五輪決定の発表、消費税8%決定の発表と、嬉しい発表、そうでない発表、いろいろとあるようです…。ではまた！



高56回（2004年3月卒）の皆さんへ 《卒業後10年!!学年同窓会のご案内》

日時：平成26年1月3日(金) 17:30受付 18:00開始
会場：八代ホワイトパレス
会費：7,000円
問い合わせ：山田 希(旧姓：田添) ☎ 090-8913-2428

「平成26年度八代中学・八代高女・八代高校同窓会総会」

平成26年8月23日(土)

午後12時30分受付開始

総会 13時30分から

懇親会 17時から

会場 八代ホワイトパレス

来年度の大同窓会は、高32回生が担当します。
多くの皆さんの御参加をお待ちいたしております。

◆住所変更時の連絡のお願い

事務局では会報発行の際、住所不明で返送される分を極力減らしたいと考えています。

住所変更の際には、事務局までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

尚、同級生がお亡くなりになったときには、事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先

〒866-0885 熊本県八代市永碇町856

熊本県立八代高等学校同窓会

TEL 0965-33-4138 FAX 0965-35-8463

メールアドレス

85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

八代高校同窓会

検索

<http://www.hachiko-dosokai.com/index.htm>

同窓会告知無料放送!!

幹事さ〜ん!

同窓会の呼びかけ、メッセージをラジオから届けます!
平成9年10月に、八代にコミュニティーFM局エフエムやつしろ 76.5MHzが開局しました。

現在、16周年目を迎え地元の情報中心に発信しています。

・同窓会をしたいけど、呼びかける方法がわからない

・〇〇ちゃん、元気かな?

などのメッセージに最適です。

例) 八高〇回卒の皆さん

お待たせしました!同窓会を〇月〇日〇時から〇〇で行います。

今回、先生方にもお声をかけていますので多くの皆様のご参加待ってます!

詳しくは、幹事〇〇 まで

無料で承ります!

放送時間は当局に一任

詳しくは、エフエムやつしろ

TEL 0965-43-7651

メール 765@kappafm.com

